

子どもの意識のつながりを大切にする「総合単元的な道徳学習」

総合単元的な道徳学習の考え方

道徳教育は、道徳性の育成を目指してすべての教育活動を通して行われるものである。そこで、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における指導において、相互の関連性や発展性に留意し、より意図的・計画的にこれらを展開し、主体的な道徳学習を実現する。

《その意義は…》

- ① 子ども主体の道徳学習が展開できる
- ② 体験的な学習や問題解決的な学習が可能となる
- ③ 道徳の時間を核とすることで体験等の意味や結果を振り返ることができ、自己を見つめることができる
- ④ 道徳的実践力の多面的な育成を図ることができる



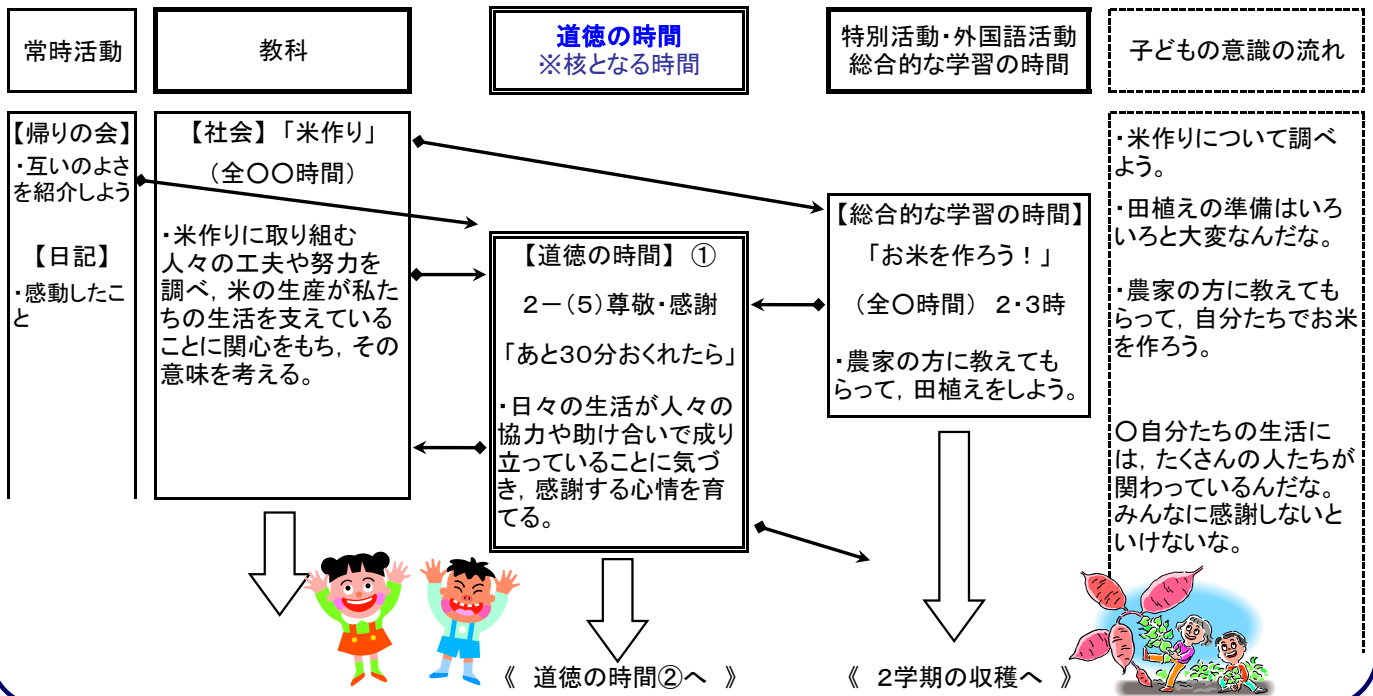
単元構想の実際

【構想の手順】

- ① 子どもたちの実態や道徳教育目標(学校・学年・学級)、教師の願いをもとに総合単元のねらいを設定するとともに、キーワードで単元名(総合主題)を表現する
- ② 総合主題に含まれる道徳的価値について、各教科、道徳の時間、特別活動、総合的な学習の時間において関連する学習を選択し、ねらいとの関連を検討する
- ③ 選択した学習や活動を吟味し、ねらいの達成に大きく関わるものだけを精選し、子どもの意識の流れを想定しながら、指導計画を作成する(配置する)
- ④ 核となる道徳の時間を指導計画全体のどこに位置付けるかを検討する
- ⑤ 総合単元的な道徳学習の計画が概ねできあがったら、単元構想図に表す
- ⑥ 単元構想図をもとに、子どもにもたせたい課題意識を明確にして、子どもの意識の流れを十分考慮し、自然な流れとなっているか検討する(実態より高度すぎでないか、主体的な学びとなっているか、等)

【単元構想図の例】

◆ 総合単元名(例): 「みんなで 支え合い! つながり合い! 喜び合い!」(第5学年)



(注) ◀▶ は、つながりを表す。

～ ～ 道徳の時間と体験活動のかかわりについて ～ ～

【体験活動を道徳の時間に生かす】

- ◇ 道徳の時間以外の体験活動を道徳の時間に思い起こす(意図的・計画的に)
- ◇ 道徳の時間の中に体験活動を取り入れる

【道徳の時間を体験活動に生かす】

- ◇ 道徳の時間に追求・把握した道徳的価値の実践の場として位置付ける
- ・道徳の時間に培われた道徳的実践力と道徳的実践を相互に響き合わせることで、子ども一人一人の道徳性を高める。

